活動を知ってもらうことが大事 地域の皆さんに理解広がる

玉村　私たちは隣の松阪市嬉野町でＮＰＯ法人として、11年間にわたって、不登校の高校生の支援をするスクールを運営していました。生徒や先生の人数が次第に増加し、何よりいろいろなノウハウが蓄積されて、何とかこの子どもたちの学校ができないかと検討してきました。その中で、津市からこの大井地区のことを紹介していただきました。実際にここに来てみると、地域の方々がとても教育熱心で、学校の再活用に関して、真剣に議論されている様子を見て、私たちもぜひその輪に加わりたいとお願いしました。

市長　以前はＮＰＯ法人として運営されていたフリースクールですね。何かの事情で、通っている学校には行きづらくなったという生徒の居場所を提供してこられた。この場合は、通信制高校に入学して、高校卒業資格を目指すということだったのですね。そういうＮＰＯ法人の運営するフリースクールを、実際の学校の校舎に移転しようという、非常に思い切ったアイデアが玉村先生の元で温められていたわけですね。奥田さん、玉村先生の夢、構想としてそのお話が届いた時、地域の方はどう感じたのですか。

奥田　当初、地域の率直な気持ちを聞きたいとアンケートを取りましたが、学校をここへ移転させるという意見は全く出ませんでした。学校といっても、幼稚園の一部移転くらいは考えられますけれど。ところが、そうこうしているうちに心配する声が上がり始めました。不登校の高校生たちが来ることに、戸惑いを隠せずにいたのです。その戸惑いを解消してもらうために、多くの時間を要しました。途中、玉村さんにも会議に同席してもらって、地域の皆さんに少しずつ理解してもらったのです。

市長　その時、玉村さんはどんなお話をされたのですか。

玉村　これまで私たちが行ってきた活動を知ってもらうことが大事だと思い、スライドなどを使って説明し、ご理解を得られたと思います。

市長　地域の皆さんと、おおむね合意ができた平成27年12月に玉村さんとの間で、この校舎の３階部分を利用いただく契約を結びました。契約なので、電気代、水道料金なども負担いただいていますし、校舎を借りていただく賃借の使用料もいただいています。玉村さんも一志学園高等学校として運営していくために学校法人の認可を得て、無事に平成28年４月に開校しました。さて、開校後の生徒の皆さんはどのような様子ですか。

玉村　４月に開校し、56人の生徒でスタートを切りました。その後、転学生が相次ぎ、現在15歳から29歳まで61人の生徒が在籍しています(平成28年７月現在)。うち27人が津市内から通学しています。進学校から転学し大学受験を目指す生徒や、小学校から不登校でしたがこつこつと学び直しを頑張っている生徒もいます。２人の生徒がソフトテニスの三重県大会で３位に入賞し、この夏、全国大会に駒を進めました。

市長　生き生きとした生徒の様子を見ていかがですか。地域の皆さんの心配もなくなってきたのではないでしょうか。

奥田　そういった心配はほとんどなくなったと思います。

市長　これからは地域の皆さんといろいろな交流活動が始まるといいですね。